

世界の人とふれあいタイム

「インドネシアの話」

平成 24 年 11 月 25 日実施

今回のゲストのアグス・スハルノさんは 25 年ほど前、留学生として来日。一旦帰国され、現在は医療機器の開発エンジニアとして勤務し、四人家族で八王子在住です。

インドネシアは多民族国家で民族、言語、文化、宗教等が多様です。島は東西、約 5,000 キロメートルに広がり、アメリカ大陸とほぼ同じ長さだそうです。

国旗は、赤が勇気、白は聖なる純粋を意味しています。先祖のルーツ(モンゴロイド)が同じと思われるのが、ジャワ人と日本人の赤ちゃんによくみられる蒙古斑。人口の約 6 割がジャワ島に住んでいるにもかかわらず、敬語が難しいジャワ語が敬遠され、最近、若者は共通語のインドネシア語だけを話すそうです。

首都ジャカルタの人口密度は東京の倍以上です。

(参考 ジャワ：東京 約 14,000 人/km²：約 6,000 人/km²)

気温はとても暑く、1 年を通して、30℃前後。ジャカルタは高層ビルの近代化したところと下町があるところが東京と同じ。一方ジョグジャカルタは京都のような特別州になっており、宮殿や、大きな広場の真ん中にりっぱな聖なる木があります。



スハルノさんファミリー

無形文化財の影絵(ワヤン)、世界の七不思議の一つ、仏教遺跡「ポルブドゥール寺院」や、ヒンドゥー教の遺跡で、世界で一番美しいといわれる「プランバナン寺院」を映像で紹介。バリ島以外にロンボク島、フローレス島、コモド島などがお薦めとのこと。

バティック(ジャワ更紗)は実物で紹介され、大きな布は女性の腰に巻いたり、赤ちゃんをおぶったりするときにも使います。手描きの手の込んだ非常に高価なものもあるそうです。正装の服もバティックで作り、スハルノさんが着用の服もバティックとのこと。

ガムランという楽器で奏でるインドネシアの音楽は、東西ジャワとバリとでは音色が異なるとのこと。滑らかに語るようなものから、澄んだポップ調、明るい自然を想うようなもの、のんびりした眠気を誘うようなもの、ダイナミックな感じなどのリズムの違いを聴かせてくれました。

食べ物は辛いカレーが有名なのがスマトラ島。ジャワ島は甘い味付け。セレベス島は魚が多く、えびを日本へ輸出しています。

Q&A では、教育制度についての質問に、「義務教育期間は日本と同じだが、大学は 4 年半」とのこと。スハルノさんが留学先に日本を選んだ理由について、「当時、ルックイースト政策から、先進国の日本に関心があったから」だそうです。インドネシアの人は日本をどういうふうに見ているのかの質問に、「年代にもよるが、インドネシアは資源も豊富で、おおらかなので、昔の恨みなどはなく、むしろ若者の人気は、漫画、アニメ、原宿ファッションなど。AKB48 に真似た、JKT48 がある」。最後の質問では、少子高齢化が進むなか、「インドネシアは人口の増加が期待され、2040 年までは若い世代が続く(※)」そうです。また「女性が結婚、出産後も働ける制度や、周りの人、お手伝いさんのサポートがあるため、仕事を続けることができる」と羨ましいお話でした。

(※根拠：国連のインドネシアの人口ボーナス[従属人口に対する生産年齢人口]が 2 倍以上)



バティック(ジャワ更紗)素材上着を身に付けて正式な衣装のスハルノさんのプレゼン光景

アンケートは、「話の内容、テーマ等が大変良かった」とほぼ全員の方からコメントをいただきました。

「世界の人とふれあいタイム」委員長 生山 龍哉

… ゲスト スハルノさんの感想 …

日本とインドネシアの関係は年々深まり、両国民の交流も活発になりますが、常に一定の距離感があるような気がします。日本に住んでいる者として、このような交流活動に少しでも役に立てることができないかと、常々思っています。

今回の講演依頼が来たとき快く引き受けました。皆様のご協力の元、多くの方々が集まり、講演を無事終わらせることが出来ました。

又、ご参加いただいた方々からたくさんの質問をいただき、その関心ぶりを体で感じる事ができて、嬉しく思いました。



※次回：2013 年 2 月 10 日(日)は「二つの国、ウガンダとコートジボアールの話」、ユニークな企画です。ご都合のつく方、ぜひご参加ください。